



「杏林型ウェルネスツーリズム」の構想立案と実施による 新たな地域観光振興の創出に関する研究

小堀貴亮(外国語学部) 石井博之(保健学部) 古本泰之(外国語学部) 大久朋子(保健学部) 北出恭子・中川智博(地域総合研究所客員研究員)

1. はじめに

我々これまで、保健学部・外国語学部観光交流文化学科の教員が主体となり「ウェルネスツーリズム」の推進と立案に取り組んできた(図1)。本研究におけるメンバーは健康寿命延伸と運動・栄養と運動・観光開発・温泉観光の専門家で構成されている。静岡県東伊豆町(図2)・愛知県田原市(図3)を対象地域としているが、今年度は特に、本学と包括連携協定を締結している東伊豆町において研究活動を進めてきたので、その成果を報告する。



図1 現時点での全体像



写真1 保健・観光学生の合同ゼミ



図2 東伊豆町の地域概要



図3 田原市の地域概要

2. 現状報告と今後の計画について

今年度は主に東伊豆町の関係者と我々が協議を行い、今後の方向性を検討した。そして、保健学部(石井研究室)と観光交流文化学科(小堀研究室)によるウェルネスツーリズムに関する共同研究を実施した(写真1)。具体的には、保健学部の学生によるバリアフリー調査と観光交流文化学科の学生によるウェルネス観光資源調査を企画し、2023年1月30日~2月1日に現地調査を実現した。現時点のウェルネスツーリズムにおける個別の取り組み計画は以下の通りである。

ウェルネスツーリズムに対する我々の取り組みの方向性について

①我々の専門性を活かしたウェルネスツーリズムの創出

荒川らによると、ウェルネスツーリズムとはヘルスケアアプローチであり、旅を通じて健康を基盤としたライフスタイルを統合的にデザインしていくための有効な縦断の一つとしている。しかし今までのウェルネスツーリズムやヘルスツーリズムは主に温泉活用を主体したもの(スパツーリズム)が多い¹⁾。我々の取り組みも日本の観光資源である温泉の活用と効果の検証は十分に考慮に入れる。今回、温泉をはじめとするウェルネス資源について現地調査によって確認した(写真2~5)ので、温泉資源を基軸としたうえで、レクリエーション・スポーツ・マインドフルネス・リラクゼーション・文化活動など、その土地ならではのアクティビティの提供を企図した新たなウェルネスツーリズムプログラムの創出を目指していきたい。



写真2 ウェルネス資源調査(源泉)



写真3 ウェルネス資源調査(足湯)



写真4 ウェルネス資源調査(ジオパーク等の自然景観)



写真5 ウェルネス資源調査(トレッキングコース等)

②誰もが受け入れられ、皆で楽しむことができる観光のあり方をそれぞれの地域で確立

障がいや介護の必要性の有無、年齢、嗜好性などの多様性を考慮し、より多くの人を楽しめ、更に健康増進や幸福感を享受できる観光プログラムを構築することとした。また、観光地および観光施設のバリアフリーとユニバーサルデザインの導入を目指して、まずはより汎用性のある評価手法の規格化から開始し、実際に現地調査を実施した(写真6~9)。



写真6 バリアフリー調査(温泉街)



写真7 バリアフリー調査(駅前)



写真8 バリアフリー調査(課題抽出)



写真9 バリアフリー調査用紙・結果

3. 今後の展望

新型コロナウイルス感染拡大などの影響により実施できなかった現地調査を実現させることができ、東伊豆町においては観光資源の現状やウェルネスツーリズムの可能性を把握することができた。今回の調査で不足していた項目や課題を吟味し、引き続き調査を継続していくとともに、杏林型ウェルネスツーリズムの確立を目指していく。さらに、今後は田原市における調査研究活動も実施していき、対象地域関係者や地域住民との連携を図りながら地域性を活かし、我々の専門性がウェルネスツーリズムに貢献できるように模索していきたいと考えている。

引用文献

- 1)荒川雅志(2017):『ウェルネスツーリズム~サードプレイスへの旅~』フレグランスジャーナル社
- 2)小堀貴亮(2020):「東伊豆町における温泉観光地域の地域的特性-新しい“首都圏の奥座敷”としての展望」温泉、88巻4号
- 3)小堀貴亮(2021):「愛知県田原市伊良湖地区における温泉観光開発と今後の展望」温泉、89巻4号